



北区自民だより

北区議会報告 平成22年7月(第37号)

自民党ホームページ URL <http://www.jimin.jp/>

地域医療を守る取り組み

自民党議員団

北社会保険病院の存続問題

5月19日、衆院厚生労働委員会で、法案の修正について「平成25年4月1日以降もなお、その者に委託することができる」という追加項目が提案され、厚労大臣が「修正の協議が国会でなされていることを承知している」と答弁があり、21、26日の委員会の質疑を経て28日に法案の修正案が賛成多数で可決、31日の衆院本会議で法案が可決されました。

6月1日、参院厚労委員会で法案の趣旨説明がされました。が、6月16日に国会が閉会されたことにより「地域医療機能推進機構法案」が廻案になりました。

その際、厚労大臣は社会保険病院長等宛に「再度提出、速やかな成立を図る。地域住民への安心、医療現場に不安・混乱が生じないよう最大限努力」する旨の文書を送付しました。

これら一連の動きの中で、自民党は、この法案の態度は民主党のこれまでの主張とはまったく違う機構存続という「おてもり」対応ではないかという、大局的な観点の中です。

印刷局東京病院 医療機能の存続を

21秋、政権交代を受けた「事業仕分け」で「印刷局は独立行政法人から国家公務員へ」の方向性が出されました。25年5月の「事業仕分け」には含まれず、昨秋の方針の具体化が図られないまま保留になっています。

これに伴い、現下においては今後のあり方が不明確な状況のままとなり「現政権=政府の態度待ち」の状況です。

受動的な状況ではありませんが、医療機能の存続を主眼とし、自民党議員団は党国会議員団と連携を取りながら奮闘して行きます。

「反対」という態度表明をしています。

今後、自民党議員団は自民党担当国会議員と今後の善後策を協議、より確かな存続へ向けた態勢をつくり、全区民的な署名活動・大臣要請等、これまでの取り組みへの期待に応えるべく最終局面に対応する決意です。ご理解下さい。

やまだ加奈子議員の代表質問要旨(6月定例区議会)



■財政・区政運営について

【山田議員】国との政権変化が区政運営に与える影響は、また、子ども手当や参議院選挙費の一部地方負担など政策変化による、区財政の新たな負担が生じています。今後危惧される負担に対し、政府に見直しを強く要望すべきです。

【花川区長】国庫補助負担金一括交付金化や、事業仕分けの結果が今後、新たな基本計画に影響が出てくることが懸念されます。国への働きかけを検討し、健全で持続可能な行政運営に努めます

■子ども手当と保育園待機児解消対策

【問】子ども手当の半分を保育事業の整備に求める意見があり、国の方向を持たず区は迅速に対応すべきです。また待機児解消に向け区に施設の活用など短期的対策や中長期的対策をお伺いします。

【答】来年4月に向け短期的対策として遊休施設を活

用した区立認可保育所の新設や既存施設の定員拡大、認証保育所の公募も実施します。中期的には余裕教室や遊休施設の活用、民間事業者の誘致等に取り組みます

■高齢者対策

【問】高齢者の就労支援の充実、シルバー人材センターの受注拡大を求めます。

【答】区としてシルバー人材センターに助言と財政援助を行い、就業機会の拡大を支援しています。

■観光へ花火大会

【問】北区基本計画2010の中で「北区観光協会の設立」をあげており、同協会設立時に北区・荒川花火大会を目玉施策にしてはどうですか

【答】北区の魅力を生かした観光事業を展開してまいります。

【問】地下鉄西ヶ原駅周辺に自転車駐車場の設置を一

【答】今後、駅利用者数の動向をみて検討します。

渡辺かつひろ議員の一般質問要旨(6月定例区議会)

■まちづくりについて

【渡辺議員】まちの景観を維持し、どのように区民合意を求めて都市計画マスタープランを推進するのか。

【花川区長】地域別・骨格的な景観づくりをすすめます。都市景観法に基づき、景観行政団体への移行を進めると共に高さ規制の在り方にについても検討します。

【問】十条跨線橋対策への決意

【答】十条跨線橋架け替えに併せ、駅前広場の整備・駅改札口・改札からホームへのバリアフリー化などについて19年から検討しています。今年度は地質調査とJR敷地内を測量実施し、計画の早期着手に取り組みます。

【問】町会自治会活動への柔軟で一元化した行政の体制

を求めて。

【答】公的機関相互の柔軟な対応、連携強化に努める。

■子育て支援策・高齢者対策

【問】区内商店支援にも繋がる児童二人乗同乗用自転車購入補助制度の導入を求めて。

【答】他自治体の実施状況等を把握しながら、検討します。

【問】元気高齢者対策強化のため、大規模施設の団体利用料金等についての対策を求めて。

【答】受益者負担の適正化を視野に考慮し、これまでの経緯を踏まえ検討します。